

日本版 グリーン・ニューデール

への提言 2



グローバルウォーター・
ジャパン代表
吉村和就氏

水資源の不足に伴って
食料の耕地面積が減り、
その規模は米国とインド
の耕地面積の総和、つま
り世界の穀物生産の3割
をまかなう規模に匹敵す
る。また、エネルギー開
発に米国では水需要の39
%、欧州では31%が使わ
れているが、今後の経済
発展を支えるには、それ
ぞれ165%、130%
の水資源がさらに必要と
予測され、このままでは

20年以内に水不足
で世界経済が崩壊

「ウォーター・ニ
ューデール」を提唱し
ているが。

「地球温暖化などを背
景に人類にとって最大の
環境問題となるのは、今

後迎える『水不足』だ。

世界の政財界のリーダー
たちが集まり先月末に
スイスで開かれたダボス
会議では、世界恐慌とい
かに戦い、金融危機から
いかに脱出するかが最大
のテーマとなったが、一
方で、その年次報告書で

は『水資源の破産宣言』

をしており、今後20年以
内に世界経済は水不足で
崩壊すると警告してい
る。農業用水や飲料水源
となっている世界各地の
70以上の主要河川が流量
の減少で枯渇の危機に瀕
しており、いままでのよ

ウォーター！

うな浪費と過剰使用の
『水バブル』を続けられ、
農業用水の確保も不可能
になる。

ダボス会議の水関連の
プレ会合では、水は食
料、エネルギー、経済成

長、人間の安全保障のす
べてを網の目で支えてい
ると指摘され、国連のパ
ン・ギムン事務総長も
『水問題の大きさを定義
し、その解決策を見い出
さなければならぬ』と
強調している

水、食料、エネ
ルギーは三位一体

——日本の『グリー
ン・ニューデール』の
議論には水問題の視点が

の背景には、中西部の穀
倉地帯の食料生産を支え
る世界最大の地下水層で
日本の面積の1.2倍も
あるオガララ帯水層の枯
渇問題がある。また、昨
年12月に東部のメリーラ
ンド州で起きた巨大な水
道管の破裂事故を憂慮
し、老朽化した水インフ
ラの更新も急務だと考え
ている。

在の40%から仮に50%へ
引き上げるためには、黒
部ダムの保水水量の70倍
に当たる年間約140億
立方メートルの水が必要とな
る。これは国内の年間の
生活用水にほぼ匹敵する
量だ。

新規の大規模な水資源
開発が困難な現在、水イ
ンフラの更新や再生水の
活用など水資源の効率的
な利用が非常に重要とな
る。そのため、『ウォー

ニューデールを

欠けていないか。

「米国のオバマ大統領
は水問題に高い関心を示
しており、水の政策チー
ムも発足させている。そ

エネルギーの自給率向上
が議論されているが、も
ちろんそれらは水問題と
無縁ではあり得ない。た
えば、食料自給率を現

ター・ニューデール』
で、節水はもろろんのこと
と、MBR（膜式活性汚
泥法）や下水汚泥からの
リン回収、海水淡水化ブ

ラントなどの技術を活用
した『水循環再生利用社
会』の構築に弾みを付け
るべきではないか。ま
た、日本の上下水道施設
の更新・維持管理市場は
2030年に120兆円
規模と試算され、大きな
内需拡大効果が見込まれ
ており、それらの前倒し
も必要だろう。

いづれにせよ、水は食
料、エネルギーと三位一
体であり、各国は国益を
賭けて水問題への対応を
強化し始めている。日本
もその流れに乗り遅れて
はいけない。水は省エ
ネ・新エネと並ぶ重要な
環境の戦略分野であるこ
とを忘れてはならない」
(よしむら・かずなり)

《本紙特別取材班》

平成21年(2009年)2月18日(水曜日)